

## 2008年消費者行動の日：持続可能な消費

### －CI会員のための行動と背景説明

CI（国際消費者機構）は、10月16日を「消費者行動の日」として、世界のCI会員に何らかの行動を起こすことを呼びかけています。その内容についてお知らせします。

消費者行動の日 2008 は「マラケシュプロセス（2003年6月16～19日にモロッコのマラケシュにて開催された持続可能な生産・消費パターンの促進に関する専門家会合で決定した持続可能な生産と消費に関する10年枠組み）」実現のためのイタリアのタスクフォースが開発した持続可能な消費の教育(ESC)に関する勧告の採択に向けたCI会員によるロビイングとアドボカシーの集大成となるだろう。この勧告は「今すぐに：持続可能な消費のための教育」と名づけられている(以後「指針」とする)。

#### われわれは（CI会員に）要請する

- ・ 持続可能な消費の教育(ESC)に関する勧告が2008年に適切な政府当局（理想的には教育省）によって採択されるための努力
- ・ 上記ガイドラインが各国の適切な政府当局（理想的には環境省）が採択され、持続可能な生産と消費に関する10年枠組みを国連環境計画（UNEP）と国連経済社会局（UN/DESA）が採用することを確かなものとする努力

#### なぜ持続可能な消費の学校教育なのか？

消費者は現在ますます複雑化した市場で行動し、大量の情報と商品およびサービスの多様な選択肢に関して問題を抱えている。現代の消費者は自らの消費の選択に持続可能性、社会的そして倫理的な関心を加えようとしている。したがって個人が若いうちから社会を形成する重要な役割を担っていることの自覚を促し勇気付けてゆく行動が至急必要とされている。

#### 公式な教育が消費者個人に以下のような機会を与える重要な役割を担っている

- ・ 消費に関係したシステムとプロセスについて学ぶ
- ・ 大世界中の消費者が日常的に受けている大量で攻撃的な広告宣伝を解読するために熟考する能力を開発する
- ・ 消費者の権利を自覚する

ESCの多くの部分は学校で既に教えられているが、一般的にまとまりと革新性に欠ける。持続可能な人間社会の発展に基づく持続可能な消費の理解はしばしば不明瞭で不十分である、授業内容は断片的で、時に古くなった科学的データと実生活ではとても機能しないことが証明されているようなモデルに基づいている。ガイドラインは

これらの懸念を解消するために公式な ESC のシステムを改善するための基礎を提供する。

### 追求される主な取り組み

ESC を国のカリキュラムに取り入れ実行するため教育者にツールを提供し、より持続可能な消費行動を確かなものにするべく ESC の重要性を理解してもらうためには、このガイドラインが「持続可能な生産と消費に関する 10 年枠組み」の一部として採択されることが重要である。CI およびイタリアのタスクフォース<sup>1</sup>は世界レベルでこのプロセスを追求している。CI は会員消費者団体と協力し、各国政府にこれらのガイドラインを各国のカリキュラムの中に組み入れ、UNDP および UN/DESA のガイドラインも採択することを働きかけてゆく。CI はマラケシュプロセスに参加した NGO の代表として、持続可能な開発委員会 (CSD) の 2010-2011 セッションにおけるガイドラインの採択についてもロビー活動を行ってゆく。

持続可能な消費は「国連持続可能な開発のための教育の10年」の主要なテーマでもある。ガイドラインには実践のための4年間のスケジュールがあり、2014年に持続可能な開発のための教育の10年が終了する前に完了することになっている。したがってガイドラインは政府にESCの課題を進めるための明確な枠組みを提供しており、その目標は2014年末までに見直される予定である。

### 消費者が実現可能な環境をつくる

多くの消費者にとってライフスタイルを変えることは容易ではない。しかし持続可能な選択をしやすような政策によって支えられていると人々が感じる事ができれば、持続可能な消費の公約はまとめられるだろう。政府は政策的枠組みを実現することで変化へのまとまった行動をとる際の良い出発点となることを調査は示している。枠組み作りのひとつの側面は学校教育と持続可能な消費の問題をカリキュラムに含むことと関係している。政府は持続可能な消費に関する政策の立案と実践、これらの政策と他の公共政策の統合を促進するべきである。自らの消費が与えるインパクトを自覚できる消費者市民を育てることによって政府は政府自身・消費者・民間企業からなる「変化の三角形」を作り出す重要な役割を果たすことができる。

したがって消費者市民とは倫理、社会、経済、環境を考慮した選択をする個人である。消費者市民は家庭、国、世界レベルで責任をもった行動をとることで公正で持続的な発展を維持することに積極的に貢献する。世界中の教育者と研究者は倫理的な消費、権利と責任、広告宣伝、健康と安全、持続可能な発展のジレンマを認識している

---

持続可能な消費の教育に関するマラケシュ・タスクフォースはイタリア政府によって主導され、第 14 回国連持続可能な開発委員会 (CSD14, 2006 年 5 月ニューヨーク) からスタートした。教育は生産と消費を持続可能な方法に変えるための重要なツールであるとみなされ、タスクフォースは持続可能な生産と消費の問題を学校教育のカリキュラムに取り入れることに焦点を当てた。  
(以下省略)

が、これらの互いに連関した問題をシステムチックに教育に取り入れた例は非常に少ない。ガイドラインは国が実践する学校教育のシステムにおける持続可能な消費に関する学際的なテーマを開発する第一歩を提供する。

## 行動を起こす

消費者行動の日2008を以下の活動によって成功させることができる。

- ・ ガイドラインを政府に採用させるために圧力をかける。用意した手紙の例を用いて教育大臣にガイドラインを承認し学校教育のカリキュラムに取り入れることを宣言するようロビイングをする。
- ・ 政府にUNEPとUN/DESAのガイドラインを採択するよう圧力をかける。提供した書式を使い環境大臣に対しUNEPとUN/DESAにコンタクトを取りガイドラインを採択するよう要請状を送る。UNEPとUN/DESAにコピーを送るのを忘れずに。
- ・ 持続可能な消費をテーマとした作文や絵のコンクールを開催し消費者の意識を高める。地元の学校にかけあい少人数の生徒によるセッションを開き持続可能な消費をテーマに作文や絵を描いてもらう。これは一例であるので国の実情に合わせた活動をしてほしい。
- ・ メディアにわれらの活動を伝える。プレスリリースのモデルを用い、地元の新聞、ラジオ、テレビ、インターネットにガイドラインと国においてとるべき行動を伝える。
- ・ 他国のCI会員団体の活動の最新情報を伝える。関係する人々にCIのウェブサイトにある持続可能な消費のページに入って最新情報を見てもらうよう働きかける。消費者行動の日の直前に情報はアップデートされる予定。
- ・ CIに情報を出し続ける。現在行っている活動を情報提供してくれればCIのウェブサイトで紹介する。写真をいれた活動報告は次のアドレスまで。

[jwitt@consint.org](mailto:jwitt@consint.org)

CI (国際消費者機構) ホームページより

以上